

早期交通開放できる コンクリート舗装

■普及目指す長水生コン



観光客らが多く通る小路で施工したワンデイペイブ。翌日には表層工の作業に入った

打設後1日(24時間)

以内で車両が通行できるようになる「早期交通開放型コンクリート舗装」1DAY PAVE(ワンデイペイブ)の施工が、このほど長野市内で行われた。現場は観光客や宿泊客から人通りが多く、車両も通行する道路。一刻も早い交通開放を求め、地元の声にこたえようと、施工者がワンデイペイブを選択した。北信エリアでは初の導入

『ワンデイペイブ』 北信で初の施工事例

事例。材料を供給した長水生コンクリート事業協同組合は同現場を足掛かりにワンデイペイブの普及を目指す考えだ。

「早くもすれば利己主義に陥るから気を付けなさい」というのを、仏様みたいな寓話を用いて説明しているのではと驚くのです。

◆今回の事件もしましたら「相手」に住むハニーのハニを考えたこと

施工を手掛けたのは守谷商会(長野市)。11月26日の午前9時から2時間半ほどかけて、生コン約24m(曲げ4・5・40・25H)を打設した。延長約36m、幅

4.35m(面積約155㎡)を施工。同日午後には、施工エリアに入ってから作業し、翌日にはコンクリートカットで目地入れの施工に入った。

ワンデイペイブは、水セメント比を低減して初期強度を高めることにより、従来1週間ほどかかっていた養生期間を1日に短縮

長く養生しなければ強度を得られないコンクリート舗装の弱点を克服



術専門学校で行われた技能五輪「構造物」に出場した赤羽優平さん

服した技術で、国土交通省の「NETIS」にも登録されている。特殊なセメントや高価な混和材を使わないため、普通の生コン工場でも入手可能な材料で製造・出荷でき、冬期でも早期開放に必要な強度を得られる。

現場責任者として施工に当たった守谷商会土木事業本部の高野貞美工事所長は、通常の生コンよりは割高となるワンデイペイブについて、「観光地などで地元要望に応じて早期に人や車両が通行できるようにすることは、安全な

全管理や地元対策の上で大きなメリットがある」と語る。早期交通開放や工期短縮といったプラスアルファを地域住民や発注者に提案できることは「施工者としての強みにもなり、イメージアップにもつながる」とする。

ワンデイペイブの利便を提案した長水生コンクリート事業協同組合で営業を担当する関谷信二氏は「こうした施工者さんの生の声や事例を生かしながら、ワンデイペイブを普及させたい」と話していた。